

入選

ぼくが役に立てた日

岡山県 赤崎小学校 5年 大西 立空

「ありがとう」。ふだんから家族や友達同士の間で、なにげなく交わしている言葉だけど、この夏ぼくは、その言葉で今までに感じたことのない充実感と達成感を得ることができ、からだとともに心が熱くなった。

7月6日、とてつもない大雨が西日本をおそった。ぼくの住む倉敷市も大きな被害を受けた。毎日のように、テレビで放送されている真備町には、お母さんの友達が住んでいる。その中の一人が、決壊した川の水が流れ込み、家が水の中にしずんだと聞いた。何か手伝えそうなことがあるなら行こうと、お母さんと二人で、真備町川辺の友達の家へ向かった。川辺橋を渡ると、車の中から見た景色は、ぼくの知っている真備町ではなかった。

道には、水没して使えなくなった家具や自転車が積み上げてあり、その両サイドには災害ごみで大きなかべができていた。道はかわいた砂で茶色くなり、そこを自衛隊の大きな車が何台も走っていて、砂ぼこりがまっていた。家を出発して、約一時間でお母さんの友達の家に到着した。作業をしていたお母さんの友達は、疲れているはずなのに

「遠くから来てくれてありがとう。」

と笑顔で迎えてくれた。ぼくは、これから片づける家の荒れ果てた様子におどろいたが、早く手伝いたい、役に立ちたいと、心から思った。

ぼくの手伝ったことは、泥水につかった食器をきれいに洗うことだった。一度水洗いをして、ハイターにつけ、もう一度洗剤を使ってしっかり洗い流し、ボックスの中にしまった。ただそれだけの作業だけど4時間もかかった。暑くて汗もたくさんかいた。お母さんの友達が冷たい飲み物を準備してくれていて、ぼくはその2リットルのスポーツドリンクを、ペットボトルごとラップ飲みした。最高においしかった。洗い物が終わって帰るとき、友達のおばあちゃんが、ぼくがさっき洗った水色のキラキラきれいなワイングラスをくれた。

「このグラス、かっこいいなあ。」

と言って大切に洗っていたのを見ていたからだと思う。おばあちゃんが、

「本当に今日はありがとうね。やることがたくさんあって、どうしようかと思ったんよ。でもすぐ助かった。お礼にワイングラスを持って帰ってね。」

ぼくは、とてもうれしかった。大人みたいに大きな重たい物は運べないけれど、人の役に立てて、来てよかったと思った。そして、とてもうれしそうに「ありがとう」と言ってくれた笑顔がまた見たいと思った。

「ありがとう」の言葉の意味を調べると、「あなたの存在はとても貴重であり、存在を認め感謝している」と、書いていた。ぼくもがんばりを認めてもらえたこの一日が、とても充実した最高の日になった。